

寺町界限

Vol.3

発行：寺町のまちづくりを考える会
事務局 ☎21-3461
定価：50円

松江市と八束郡の広域合併—
先般の松江市議会で宮岡市長が
質問に答えてから、何かしら夢
に対する市民の期待が高まって
いる。

松江市と八束郡が合併すると
20万都市だし、宍道湖と中海
を取り巻く市町村が合併すると
60万都市になる。日本海側で
は、新潟や金沢を凌ぐ大都市の
出現だ。

ところで、正月というので八
雲村の友人と飲んだ。友人曰く
『松江市に合併されるのは構わ
ないけど、愛着のある八雲村と

いう呼び方が出来なくなるのは
寂しいなあ。』
そこで、酔いにまかせて知り
合いの某公務員に電話した。
『松江市と八束郡が合併したら
玉湯町とか八雲村といった名前
はどうなるんですか。ちなみに
僕は万代町に住んでますが。』
『うーん、例えば寺町とか言う
のは昔の大字が町名になったも
のですから、合併後は玉湯町湯
町が松江市湯町になるんじゃない
いでしょか。』
『すると、八雲村という呼び名
は消えてしまうのですか？』

『いやいや、万代町だって通用
しているわけですから、消える
ことはないと思いますよ。そこ
で暮らす人々が使い続ける限り、
松江市八雲村だってありえませ
よ。』
なるほど、そんなものか。妙
に悟った2人のもとへ年賀状が
投げ込まれた。
差し出し人は、大学時代の友
人である。
『群馬県群馬郡群馬町群馬—
頭の混乱した2人は、どちら
からともなく、再び飲み始めた
のであった。』

初

夢

あけまして
おめでとう
ございます



寺町界限

美香穂 ● 阿雅紗 ●
レディスイトクマ ●
F・K理容 ● 更科食堂 ●
土井日進堂薬局 ● スイング ● 昌子商店 ●
ナショナル会館 ● やよいデパート ●
STRAW ● 田村印舗 ●
福本時計店 ● 原鳥獣店 ●
東林寺 ● 三英堂 ● 珍来軒 ● 常教寺 ●
美香穂 ● 阿雅紗 ● タカキ楽器 ● サンキュウ美容 ● 長野清光堂 ● メガネイワセ ●
べん慶 ● 富田茶舗 ● 錦弘堂 ● 石富呉服 ● パチンコ ● ユーゲジョナル ● とさわ寿し ●
フルーツフラワー ● 小西 ● 染屋 ● あゆみ ● ろんじん ● Bee West ● 江本衣料 ●

〈お店紹介〉

メガネ専門店

メガネのイッセ

松江市寺町199-5 (松江駅通り)
TEL 23-3931

気品あふれる一着を
ぜひご覧下さい

LADY SHOP イトクマ

松江市寺町198-1
TEL 21-2891

ジャパンフラワーネットワーク
全国どこへでも
お花をお届けいたします

お祝いに、お見舞い、お悔みに…
贈り物を演出します

FRUITS & FLOWER ZIZU

松江・朝日町十字路
TEL 21-2216

おじいちゃんの独り言 (その1)

高木 清



万代町の始まり

齢八十年、元々弱い頭で今の事はすぐに忘れてしまうのに、昔の事は案外覚えていられるのは、誰でも一緒のようだ。もう先が見えてきたお寺、寺町のまちづくりを考へる会から依頼があったので書いてみることにした。大正三年(一九一四年)松江に生まれ、今日までの変遷について目にしたことを書いてみる。少しでも参考になれば幸い。

万代町の成立——私の記憶が確かならば、大正初期に松江駅が出来て、駅舎の裏は田中荒神の社が田んぼの中に五、六本の松に囲まれ、一面の田地の向こうには参勤交代の名残の松原が見え、出雲富士と呼ばれた大山も望めるのどかな風景だった。駅通りは一文家弁当店、二軒の土産品店、旅館が二軒、人力車駐車場、三度宿(三度宿とは、出雲今市以東米子以西の小荷物を毎日運ぶ人の宿)、材



若き日の高木 清さん。昭和10年、22歳当時。

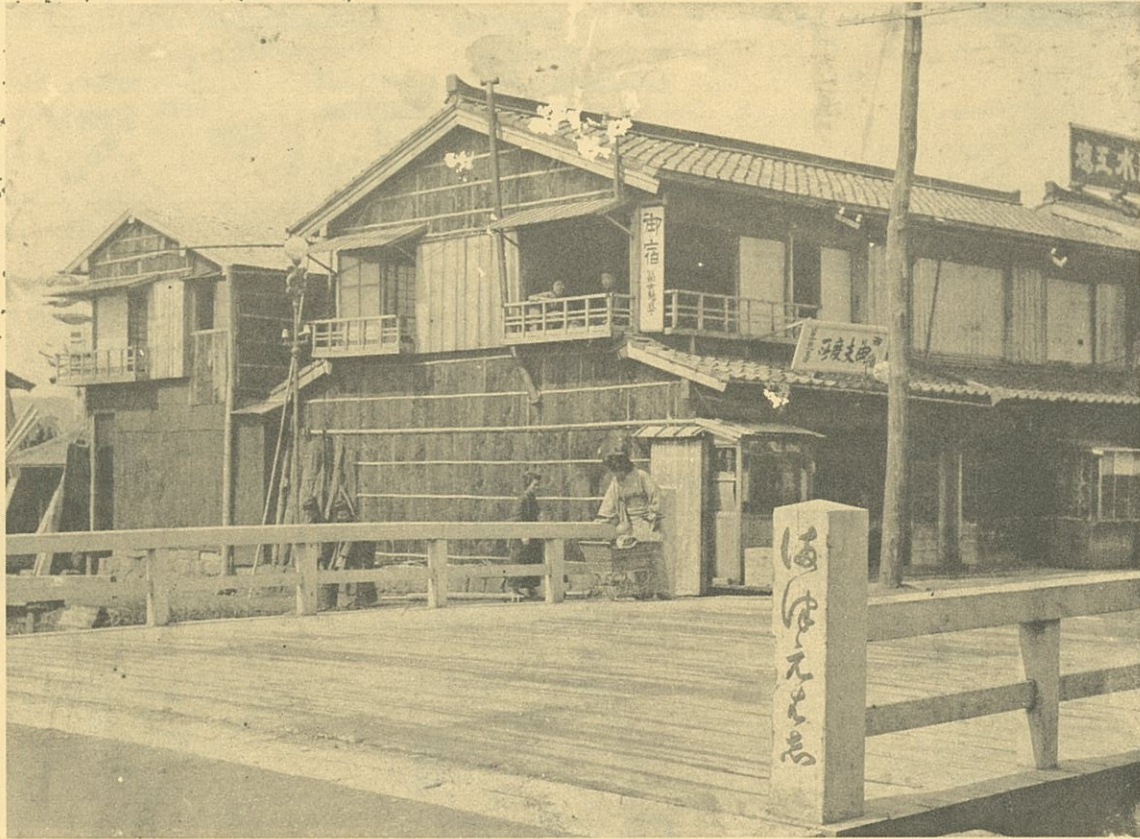
木屋等、そして現在もある松江館、亀屋旅館、酒井自転車店(現在交通公社)。ここまでが朝日町、その先が万代町だった。当時、寺町駅通りと言っていたが、小西桂月堂の分家ができた。今の果物店は元は製あん所だった。万代町という名は、本店のお爺さんが名付け親だったが、正式な町名登録をされぬまま今日に至っている。

現、朝日町十字路は、新大橋通りから中央通りへと堀川が通じ、大橋川と天神川を舟で行き交う大切な交通路で、駅から天神町方面へは松江橋と言う木橋が架かっていた。今の人には想像もつかぬ風景だった。

万代町商店街も店がいろいろ変わったが、当時は南側東より高木旅館、柳楽陶器店、山崎雨傘製作所、丸一旅館、紅帽子店、錦弘堂印刷店、大坂履物店、松井車工作所、大西旅館、大成雑貨店、川上薬局、FK理髪店、ときわ寿司と続いていた。一方北側は、東より今岡理髪店、人力車の溜まり場、牧原菓子卸店、洞井家具製作所、岡田せんべい屋、金物小物店、小林印房店、伊原堺館、津田庭園師、牧戸銭湯、来海漬物店、木村旅館と続いていた。上記の他にも数店があったと思うが不明。

また、劇場が二軒、栄徳座(現在のやよい)に出雲劇場と言ったが、栄徳座は大正五年に、出雲劇場は昭和二十二年にそれぞれ焼失した。なお、松江座は後の大劇で、現在は駐車場になっている。

次回、万代町自治会の活躍などについて述べたいと思えます。



富士見亭(現高木楽器店)。2階から大山がよく見えた。手前の橋は松江橋。

トワイライトゾーン

万代町の子供達

万代町はとても小さな町内です。それでも子供が沢山いた頃には、小路ごとに子供の溜まり場がありました。

高架される前のアベック通りは、町内で唯一木立のある通りで、子供達がビー玉遊びなどをして遊んでいました。けれども、木立そのものは、舗装に慣れた万代町の子供達にとって、足の遠のく場所でした。

そのうち子供達の間で、あの木立では首吊りがあったという噂が立ち始めました。人は畏怖するものに対し、根も葉もない作り話をするものです。

今では大きなマンションも建ち、木立はおろか、作り話を真顔で語った子供達も、幾人ここに残っているのでしょうか。



お店紹介

富田茶舗



松江藩七代藩主不味公が茶人であったことから、松江には数多くのお茶店があります。

当店は、今年で創業五十年。商品も創業当時とは様変わりし、今では健康茶やコーヒーなど数十種類にのぼっています。

全国各地のお茶を仕入れ、お客様のお好みに合わせた商品の製造を心掛け、花出雲、松籟など幾つかのオリジナル商品を販売してお客様のお引き立てを賜っておりませんが、最近では緑の露(しあわせ緑)が特に好評です。

専門店ならではのお客様とのふれあいを大切に、一人でも多くの方々に味わって頂きたいと思えます。ぜひ一度お立ち寄り下さい。